

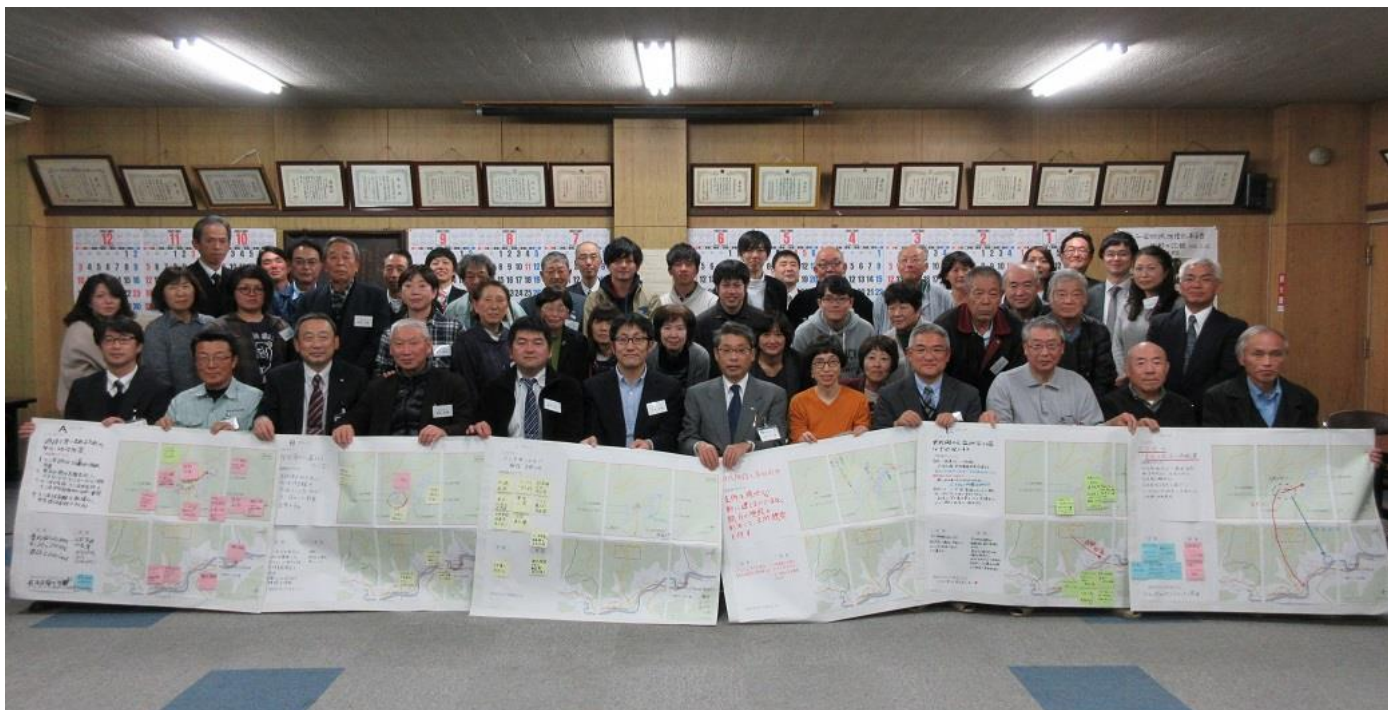
最終回 市民ワークショップ

「私たちが考える、公共施設の将来像」

をテーマにグループ討論を行いました

12月4日（月）支所2階で、第3回の「七二会地区の公共施設について考える」市民ワークショップを開催しました。

既存の公共施設の再配置を考えるグループ討論の後、まとめとなる意見発表を行いました。住民自治協議会の小池会長のあいさつ、樋口副市長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、七二会地区のワークショップは幕を閉じました。関係の皆さま、ありがとうございました。



信州大学工学部の学生グループも含め、支所の将来像を中心に、七二会の公共施設の再配置案を、短い時間の中でまとめて発表していただきました。（詳細は次ページをご覧ください）

今後、具体的な再配置及び施設整備に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等を参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまの意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。



今回のワークショップは、七二会地区住民自治協議会のご協力をいただき、公募及び、七二会地区内の各区からご参加いただいたメンバーで、熱い討論を重ねていただきました。

【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話：224-7592

七二会支所 電話：229-2311



七二会地区の主な公共施設

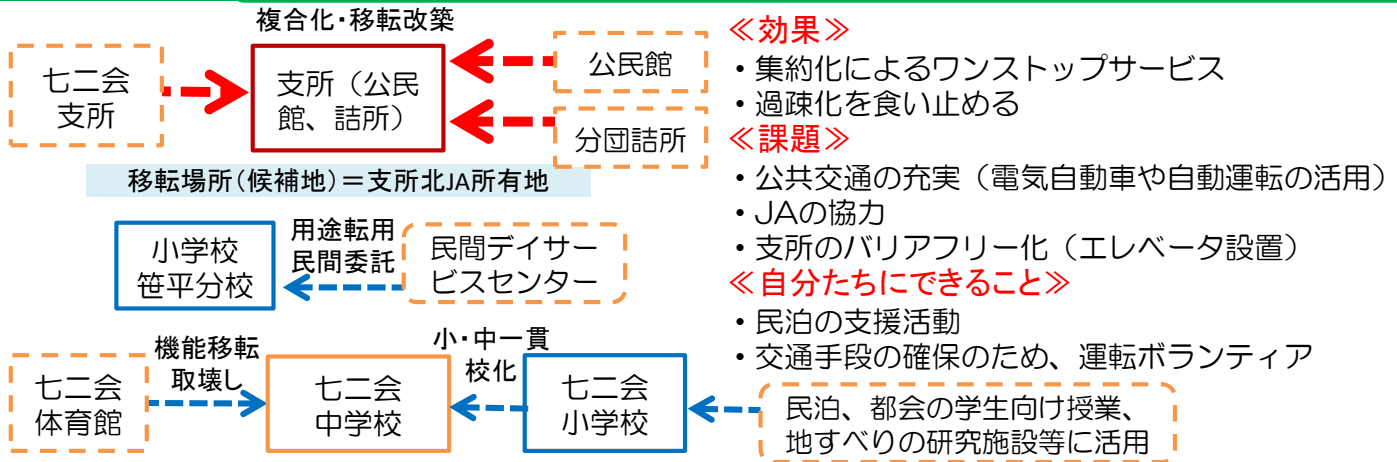


各グループの施設再配置案の概要をご紹介します

以下に、建物移す案を **→** で、機能移す案を **→** で、表しています

Aグループ

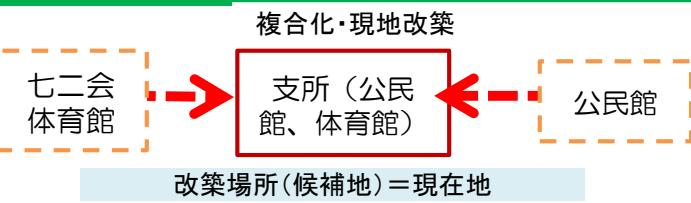
コンセプト【過疎を食い止めるための中心地活用案】



- 《効果》
- ・集約化によるワンストップサービス
 - ・過疎化を食い止める
- 《課題》
- ・公共交通の充実（電気自動車や自動運転の活用）
 - ・JAの協力
 - ・支所のバリアフリー化（エレベータ設置）
- 《自分たちができること》
- ・民泊の支援活動
 - ・交通手段の確保のため、運転ボランティア

Bグループ

コンセプト【安心安全に暮らせる七二会！！】



- 《効果》
- ・災害時の避難所等の拠点施設を確保する
- 《課題》
- ・移転し、空き施設となった、公民館・体育館等の後利用
- 《その他の意見》
- ・支所現地は土砂災害に弱いので、支所は国道沿線にすべき。国道沿線に施設が少ない、との意見があった
 - ・一方、やはり支所は七二会の中心である市場にあるべきとの意見もあった

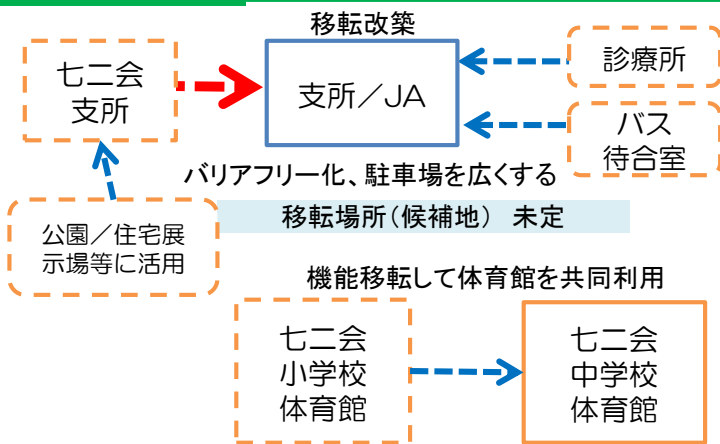
□国道沿線の水害等においては、新しい支所、中学校を災害対応の拠点として利用

□支所周辺等の土砂災害等においては、笹平分校、消防分署を災害対応の拠点として利用
□支所が被災したら笹平分校に機能移転する

□七二会保育園に来園している子どもは、七二会小学校へ入学してもらう

□新しい施設はできるだけ作らない

Cグループ コンセプト 【老人が使いやすい施設+子供にも】



《効果》

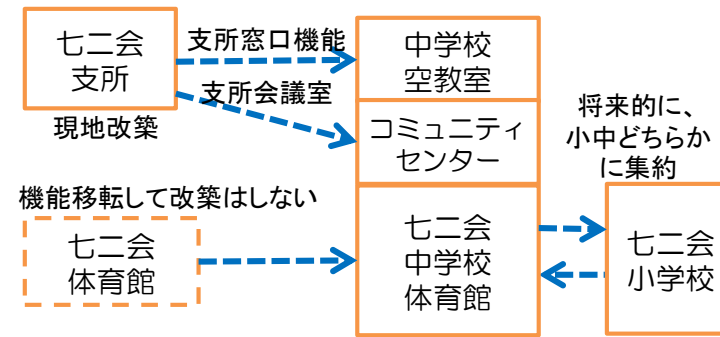
- 人が集まりやすい
- 施設の機能向上（駐車場の確保）
- 防災拠点化（備蓄、避難所）
- ランニングコストの削減

《課題》

- 本当は複合施設化の中に、新しい駐在所を含められれば良かった

・ふれあい交流広場は、多世代に開放してイベントなどに活用する

Dグループ コンセプト 【既存施設を有効利用】



《効果》

- コストの低減
- 既存施設の利用率アップ

《課題》

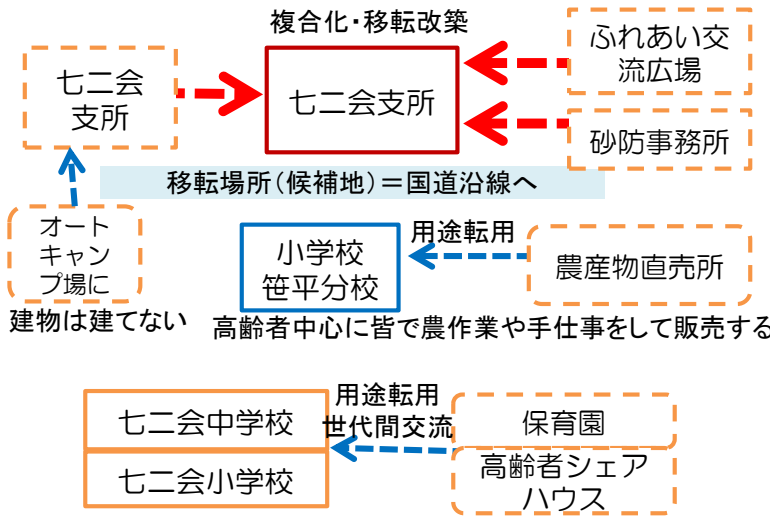
- 支所に必要なスペースがどの程度が明確でない
- 今は、学校に空き教室が無いと聞いている

《その他の意見》

- 支所は現在地周辺に必要。無くなると市場の過疎化が進み子どもの安全にも悪影響
- 小中学校を統合し、空いた校舎に介護施設を整備する時代がくるかもしれない



Eグループ コンセプト 【世代間の交流が深まる様な中心地にする】



《効果》

- 国道沿いに移転することで、他地区の人でも利用できて人が集まる

《課題》

- 七二会の中心地から支所が移転すると淋しい、学校を利用して七二会の中心地に世代を越えた人が集まるよりどころを作りたい

《自分たちにできること》

- 七二会に住み続けること

《その他の意見》

- 他地区の支所の活用を考える。支所の機能を選別する。行政手続はどこでもできる。
- 一方、支所不要と言えるのは車の運転ができる間だけとの意見もあった

Fグループ コンセプト 【七二会の文化と生活の再配置】 信州大学工学部学生

- 七二会支所は、七二会保育園付近へ移転する。支所跡地周辺は、歴史・自然の中心、新支所周辺を生活の中心にする
- 七二会体育館、小学校体育館、笹平分校体育館は、中学校体育館へ集約
- 七二会コミュニティセンターは学校の空き教室へ集約する
- 小・中学校の空き教室を使い支所出張サービスを行う。学校体育館の地域開放を



参加者アンケートの主な意見をご紹介します



信大工学部 羽藤准教授



住自協 小池会長



樋口副市長

【Aグループ】

- ◆みんなの希望が詰まったプランニングなので、なるべく沢山取り入れられるよう、住民も協力して進めていければ良い
- ◆何もかも支所等に任せるのではなく、地域住民が考えての利便性を重視していく必要がある
- ◆子育て中の世代の意見を聞いてみたい。中高生にも考えてほしい
- ◆七二会の課題について参加者全員が真剣に考えた。全員が七二会を良くしたいのが分かった

【Bグループ】

- ◆意見がはっきり言えなかったが、七二会のことを真剣に考えたつもり。このような機会はめったにないと思うので、参加できて良かった
- ◆今まで他人事で、施設が新しくなれば良かった、と思う程度だったが、集約化・複合化などを含めて今後の課題について考えていければと思う

【Cグループ】

- ◆グループごとに様々な意見が出てきて参考になった
- ◆公共施設に対する色々な意見があり、日ごろ考える事が無かったので良い機会になった
- ◆七二会がもっと盛り上がりますように

【Dグループ】

- ◆新しいアイデアが多く出たことは素晴らしい。住民の声が反映されることを強く希望する
- ◆ワークショップに参加して勉強になった。公共施設と地域住民がどう関係を持つのか、いろいろ考えさせられた
- ◆同じ七二会に住んでいても、暮らしている地区で意見の違いがあることが良く分かった
- ◆長野市の公共施設の考え方が不明のもとワークショップが行われたように思う

【Eグループ】

- ◆色々な考えや思いがあり、まとめるのが大変だと思うが、進めてほしい
- ◆今回の試みが将来実現することを願う。様々な実情や心情をまとめるのは困難だと思う
- ◆公共施設が沢山あるのにびっくりした。七二会のこれからを考える事が出来た

【Fグループ】 今回は大学生のグループを作りました

- ◆これまでは、公共施設を一つの建物としてしか考えられなかったが、地域全体からの視点でみることができ、これからの在り方を考える事が出来た
- ◆施設は、ただ使えれば良いと思っていたが、集約化の重要性や不要な施設のランニングコストなどについて考えさせられた

【羽藤先生の講評から】第一回目から段階的に議論が具体化し、支所を中心とした施設の在り方まで高めていくことができた。公共施設の再配置については、コストの問題や施設削減など耳の痛い話になりがちだが、今回の話し合いや意見交換の中で、地域の皆さんの思いや希望など、コストの様に数字では計りきれない部分が出された。その点からも、ワークショップの議論が有意義であったと思う。ワークショップで出されたアイデアや意見が今後の施策に生かされることを期待します。

七二会地区のワークショップ開催に御協力いただいた皆さまに、改めて厚くお礼申し上げます



最終回 市民ワークショップ

「私たちが考える、公共施設の将来像」

をテーマにグループ討論を行いました

全戸配布

1月13日（土）支所大会議室で、第4回の「信州新町地区の公共施設について考える」市民ワークショップを開催しました。

既存の公共施設の再配置を考えるグループ討論の後、まとめとなる意見発表を行いました。住民自治協議会の丸山会長のあいさつ、久保田総務部長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、信州新町地区のワークショップは幕を閉じました。関係の皆さま、ありがとうございました。



信州新町中学校、篠ノ井高校犀峽校のグループも含め、地区の将来像を話し合い、公共施設の再配置案を、短い時間の中でまとめて発表していただきました。（詳細は次ページをご覧ください）

今後、具体的な再配置及び施設整備に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等を参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまの意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。



今回のワークショップは、信州新町地区住民自治協議会のご協力をいただき、公募及び、地区内の各区からご参加いただいたメンバーで、熱い討論を重ねていただきました。

【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話：224-7592

信州新町支所 電話：262-2200



新町体育館

支所・公民館

小学校

中学校

信州新町の主な公共施設



犀川交流センター

さぎり荘

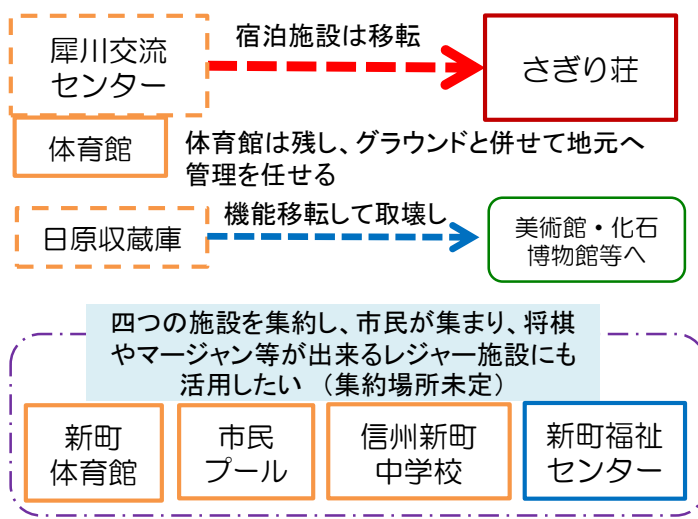
道の駅

新町福祉センター

各グループの施設再配置案の概要をご紹介します

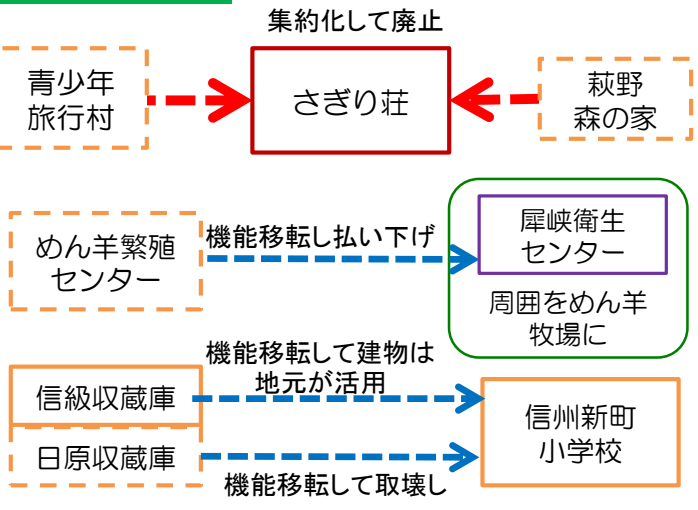
以下に、建物を移す案を で、機能を移す案を で、表しています

Aグループ コンセプト【遊休施設の使い道。高齢住民のいきいのか】



- 《効果》
- ・グラウンドにオートキャンプ場をつくれば市外から集客できる
 - ・レジャー施設で人との交流ができ、高齢者が外に出るようになり、ほけ防止になる
- 《課題》
- ・今、地元で管理できても10年後には対応できなくなる可能性がある
 - ・高齢者の施設までの交通手段の確保。一人でも施設に行ける体制
- 《自分たちにできること》
- ・グラウンドの草刈りや立木・植栽の管理
 - ・交通手段の確保のため、乗り合わせの運転

Bグループ コンセプト【集約と連携】

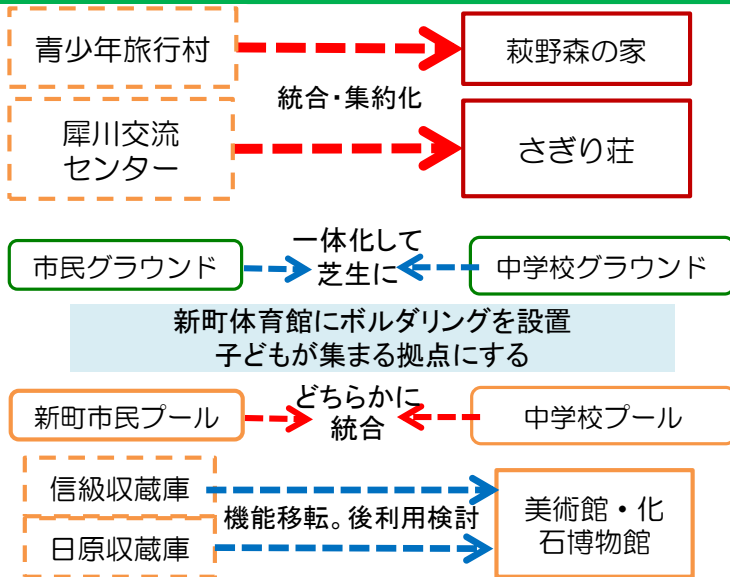


- 《効果》
- ・地域産業の活性化
 - ・めん羊牧場が、くめじ荘の近くに来ることで高齢者の働く場所ができる
 - ・高齢者の生きがいづくり
 - ・経費削減、合理化、住民サービス向上
- 《課題》
- ・廃止する施設にかかる地元の合意
 - ・高齢化社会における人口減少
- 《自分たちにできること》
- ・資金集め（クラウドファンディング等）
 - ・ボランティア活動



Cグループ

コンセプト 【住みやすい町～子どもファースト～】



《効果》

- 子どもたちが休日に、気兼ねなく集まれる場所（新町体育館周辺に）をつくる
- 健康増進になる

《課題》

- 芝生の管理
- 新町福祉センターは機能移転も考えたが防災拠点として必要

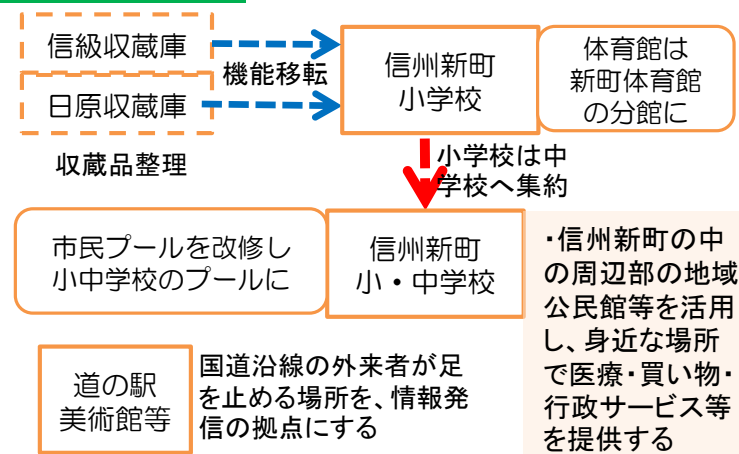
《自分たちにできること》

- グラウンド整備の手伝い
- スポーツ活動の指導や見守り（ボランティア）

・支所の市民ホールを有効活用する（寒くて、気軽に入りづらいので、カフェ機能などを設ける）

Dグループ

コンセプト 【中心と周辺】



《効果》

- 外来者に情報を提供できる

《課題》

- 周辺部と中心部をつなぐアクセス

《自分たちにできること》

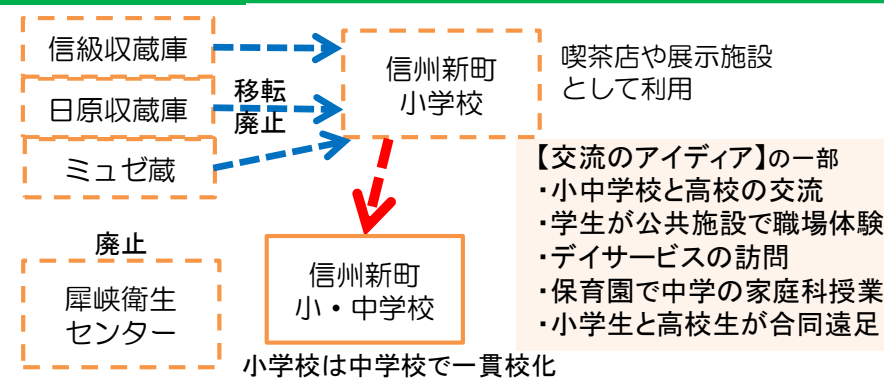
- SNSを利用した情報発信

《その他の意見》

- 美術館・博物館・記念館を集約化して空いた施設に地元食材を使ったレストランを誘致
- 大工・左官などの職人の技術を紹介する展示施設があると良い
- ホームページなど、インターネットによる情報発信を行う場所も公共施設

Eグループ

コンセプト 【『交流』が盛んなまち】



《効果》

- 小学校が交流の中心になる
- コスト削減

《課題》

- 交通手段
- 小学校は階段が多い

《自分たちにできること》

- 施設の清掃
- ボランティア活動



【住民自治協議会丸山会長のあいさつ】

ワークショップを開催して、改めて信州新町の姿を見ることができた。信州新町も高齢化が進んで人口も減少しているが、安心安全で暮らしやすい環境を作っていく必要がある。ワークショップの意見は行政に活かしていただきたい。

参加者アンケートの主な意見をご紹介します



住自協 丸山会長



久保田総務部長

【Aグループ】

- ◆いままで公共施設について本気で考えたことがなかったが、ワークショップに参加して公共施設に対する考え方が変わった
- ◆グループ討議の中で、自分の考えを出すことができた。これからは不安な施設がかなりあった

【Bグループ】

- ◆今まで仕事の関係で、新町に関することに参加できなかったのが、今回色々な意味で、大変良かった。グループ討議の意見集約の時間がもう少し必要だ
- ◆女性の意見も聞きたかった ◆住民参画の重要性について再認識した

【Cグループ】

- ◆自分が考えているより、認知度が低い施設が多いことに驚いた。色々な話が出来て有意義な時間であった ◆知らない施設のことがわかった
- ◆自分では必要ないと思っていた施設が、地元の地域の人たちに必要なものだった。改めて公共施設の統合は難しいと感じた
- ◆人口減少時代の中で、限られたものを有効に活用すべき

【Dグループ】

- ◆これから自分にできることは何か？考えて見ようと思った
- ◆自分の意見が十分に言えなかった。公共施設に対する考え方もあまり変わらなかった

【Eグループ】

- ◆自分の出身地にも同じことが言えるため、身近な問題として考える事が出来た
- ◆今までは全ての施設が必要なのだと思っていたが、必要のない施設も沢山あることを知ることができた ◆公共施設について考える良い機会になった
- ◆公共施設に大きなお金がかかっている、どんどんまとめていく方が良いということを知って考えるようになった ◆公共施設をもっと利用しようと思った

【見学の方からも意見をいただきました】

- ◆参加したメンバーが真剣に新町のことを考えていることが伝わってきた。自分は移住してきた者だが、自然や周囲の方の温かさに助けられている。実際に子育てしながら困ったこともあった。子どもとお年寄りが一緒に過ごせる施設があると良いと思った

【久保田総務部長から御礼のあいさつ】

四回に渡るワークショップで、熱心に討議をいただき、関係各位に心より御礼申し上げます。参加メンバーの皆さんは、これほど地元のこと、地域の施設のことを話し合う機会は無かったのではないのでしょうか。今回のワークショップの成果は今後生きてくると確信しています。

中心部の施設へ集約化して活性化させていく意見が多かったが、課題として交通の問題が出され、解決策として、医療や物販を出張させるといった意見もありました。

こういった様々な意見を、地域としても引き続き検討していただき、市としても、信州新町は勿論、オリンピック施設も含めた長野市全体の公共施設について検討してまいりますので、ご協力をお願いいたします。

信州新町地区のワークショップ開催に御協力いただいた皆さまに、改めて厚くお礼申し上げます



「私たちが考える、公共施設の将来像」

をテーマにグループ討論を行いました

1月21日（日）松代支所大会議室で、第4回「松代地区の公共施設について考える」市民ワークショップを開催しました。

既存施設の再配置を考えるグループ討論の後、まとめとなる意見発表を行いました。アドバイザー信州大学梅干野先生の総括、住民自治協議会の西村会長のあいさつ、樋口副市長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、松代のワークショップは幕を閉じました。関係の皆さま、ありがとうございました。



松代中学生のグループも含め、地区の将来像を話し合い、公共施設の再配置案をまとめて発表していただきました。（詳細は次ページをご覧ください）

今後、具体的な再配置及び施設整備に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等を参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまの意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。

今回のワークショップは、松代地区住民自治協議会のご協力をいただき、公募及び、地区内の各区からご参加いただいたメンバーで、熱い討論を重ねていただきました。

【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話：224-7592

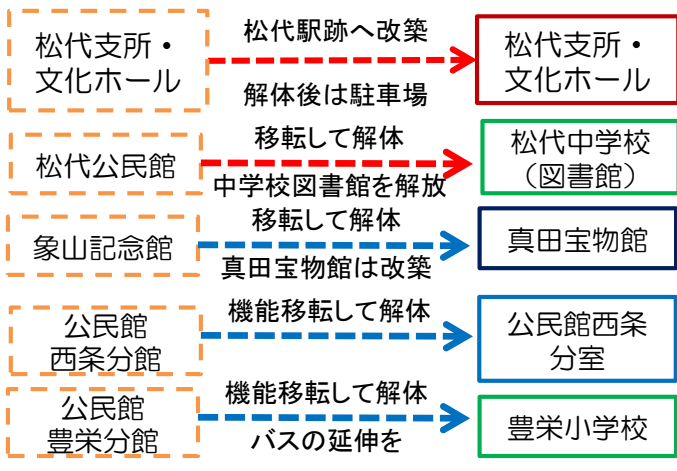
松代支所 電話：278-2280



各グループの施設再配置案の概要をご紹介します

以下に、建物を移す案を で、機能を移す案を で、表しています

Aグループ コンセプト【長野市で一番人気のある街 松代】



＜効果＞

- ・中心部に駐車場を確保する
- ・本が人を集める。学校間交流の推進

＜課題＞

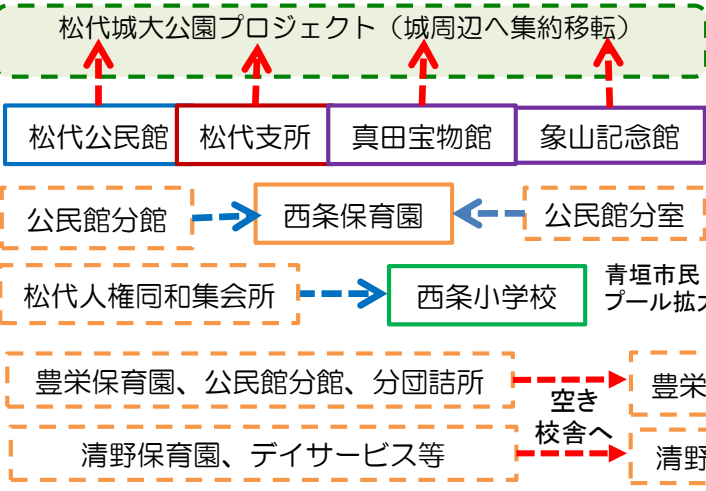
- ・空き教室の無い小学校へは、周辺施設の集約化はできない
- ・学校複合化の場合、セキュリティーの確保
- ・移動手段（交通）の確保

＜自分たちにできること＞

- ・継続的にワークショップを開催して改善を進める
- ・中学校図書館の警備等を地元で担当する

人権同和集会所は集約化、教職員住宅は統廃合を進める
小学校の運動会・音楽会は松代全体で開催する

Bグループ コンセプト【若い人が集まる街に！若い人で創造できる街】



＜効果＞

- ・集約化でコスト削減
- ・文化ホール含め、街中の駐車場不足解消
- ・イベント施設と生活空間の分割を図り、道路混雑の解消ができる

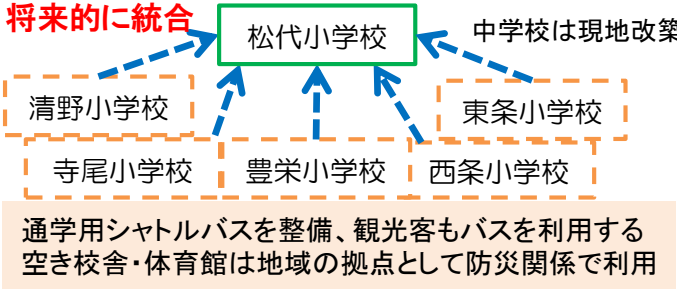
＜課題＞

- ・土地の取得費、改築等の工事費

＜自分たちにできること＞

- ・行政への協力

Cグループ コンセプト【歴史・文化都市で教育を（松代ブランドにしたい）】



＜効果＞

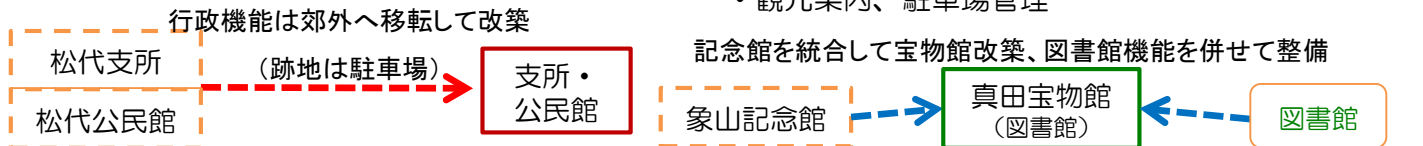
- ・集約化で経済的、空間的な効率化
- ・街中の駐車場不足解消
- ・小学校と文武学校の連携を継続する

＜課題＞

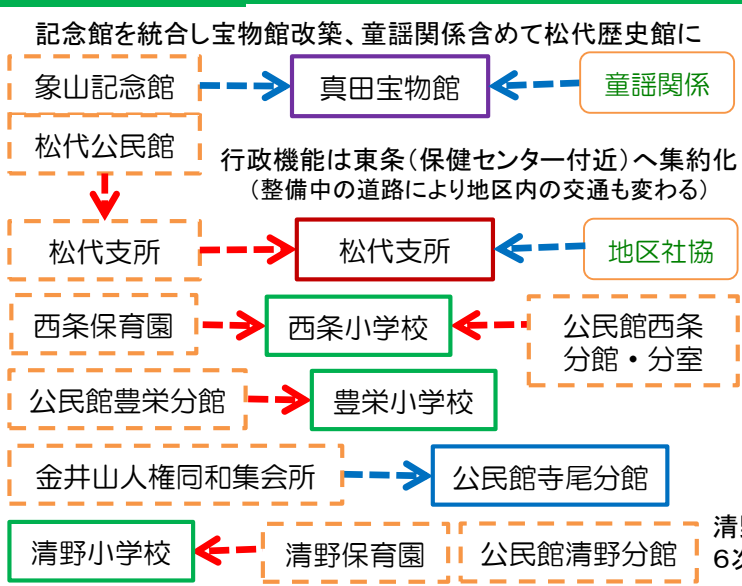
- ・シャトルバスの利便性と安全面

＜自分たちにできること＞

- ・土産品を作ったり、ボランティア活動
- ・観光案内、駐車場管理



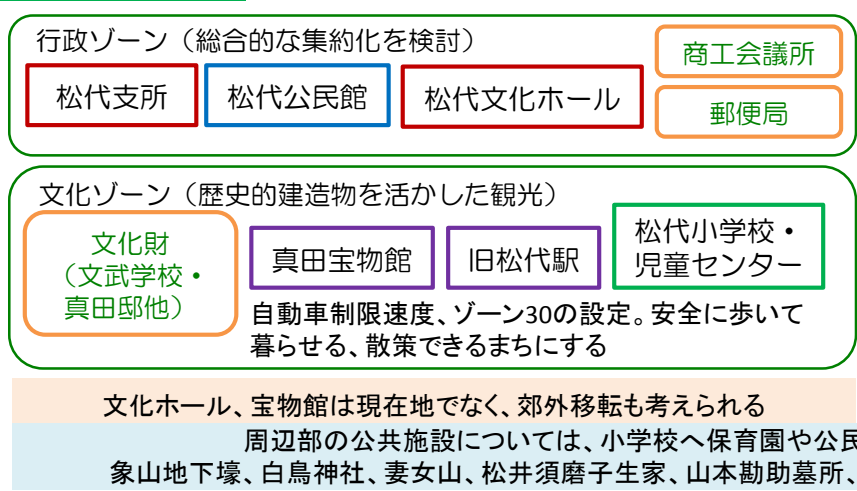
Dグループ コンセプト【住民にとって住みやすい街、おもてなしにあふれる街】



《効果》
 ・観光機能を中心部にまとめて賑わいを生む
 ・行政機能は東条でワンストップサービスに
《課題》
 ・既存施設のバリアフリー化が進んでいない
 ・公共交通機関が不足している
《自分たちにできること》
 ・拠点間の移送サービス
 ・おもてなし活動をグループで継続する
 ・松代に住む人を増やす
 ・空き家の利用を促進する

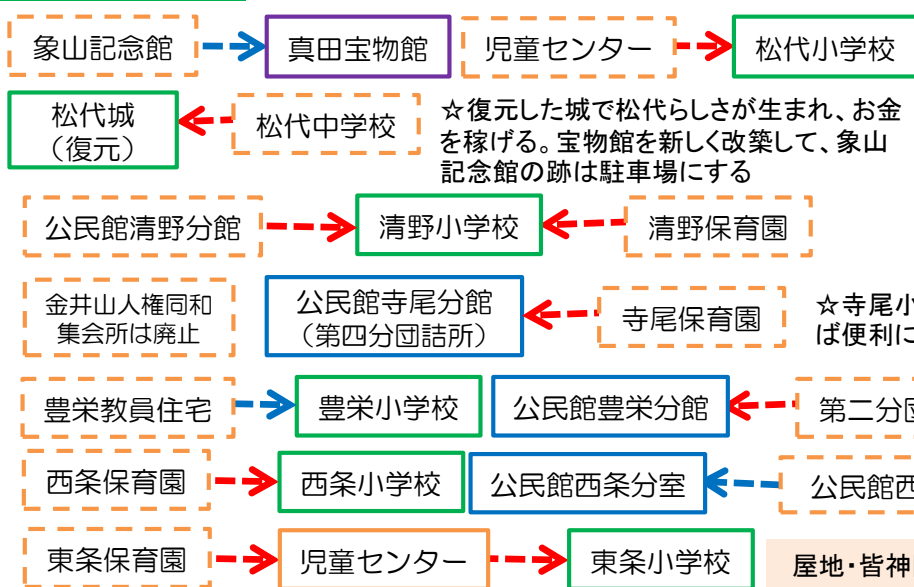
「旧松代駅舎」を観光案内の拠点施設にする
 市営住宅、教員住宅は松代地区全体で集約化を検討
 清野分館は地場産品販売センターに転用。農業大学と連携し、6次産業化に向けて清野の施設を活用する

Eグループ コンセプト【文化施設が残る町】



《効果》
 ・集約化によるコスト削減
 ・文化財を残し歴史を感じる町に
《課題》
 ・人口減少対策(企業誘致等)
 ・空き家の活用(武家屋敷等の消滅が懸念される)
《自分たちにできること》
 ・公共施設利用者のコスト負担
 ・観光案内、ボランティアガイド
 ・レンタサイクル等交通の充実

Fグループ コンセプト【城と歴史の道と文化財を活用した観光客を呼べる町】



中学生の皆さんのグループです
《効果》 図中☆で表示
《自分たちにできること》
 ・若い人が中心になった街づくりの組織をつくる
 ・クラウドファンディングや募金で資金集めをする
 ☆寺尾小学校に隣接する公民館分館に集約できれば便利になり、交流も増える。駐車場が増える
 ☆駐車場が増え、路上駐車が減る
 ☆園児と児童の交流が増える。送迎がしやすくなる
 屋地・皆神団地等の市営住宅を集約化して跡地を利用

参加者アンケートの主な意見をご紹介します

- ◆松代に住みたいと思う人が多くなり、人が増えて欲しい。自分にできることがあれば協力できる自分でありたい
- ◆次の世代の子供たちにとって住みやすい松代であってほしい
- ◆今まであまり考えたことがなく過ごしてきてしまったが、自分の住む町に直接関わる事で、無関心ではいけないと思った
- ◆人口減少に伴い、施設や交通機関など将来を見据えて、これからもワークショップなどの話し合いを続けて行くことが必要だと思う
- ◆次世代の負担を減らすために、思い切った方法で考えなければならないと実感した
- ◆小学校の統合については、経済的な視点だけで考えるべきでない。小さいからムダ→統合という訳にはいかない。まちづくりの視点でも考えて行く。勉強会を作っていくべき
- ◆検討の時間が足りない。参加メンバーの、松代に係る知識の程度が違うので話がかみ合わない部分があった
- ◆今まで当たり前に使っていた公共施設の、今後の在り方について、色々な意見を含めて、考える事ができた
- ◆そもそも集約化、複合化という言葉が知らなかったもので、それらについて話し合うことで、松代に対する関心が高まったと思う
- ◆自分の住んでいる町を知ることができ、大人の人たちと課題、良さ、改善策について話し合うことができてよかった
- ◆とても楽しかったです。ありがとうございました



【梅干野先生からのアドバイス】

松代は生きている町、人が町の中で活発に動いている町であると感じた。町は生き物で、文化施設も公共施設も町という生き物の細胞。今、社会的な諸問題があって細胞を新陳代謝しなければならない。生き物としての町を良い方向に導いていくのは、その町に住んでいる皆さんです。自分たちにできることを中心に、活発に、素晴らしい町の未来を描いていただきたい。

【住民自治協議会 西村会長のあいさつ】

各グループとも、文化施設と観光について熱心に考え、小学校統廃合についてもわりと客観的に見ておられる。ワークショップで各世代・各地区の皆さんの意見を聞き大変参考になった。地域の活動に若い人が参画していただけるように、住自協としても今後活かしてまいります。

【樋口副市長から御礼のあいさつ】

4回にわたるワークショップで、熱心に討議をいただき、関係各位に心より御礼申し上げます。公共施設の適正化は全国的な課題で、今の時代のニーズに合わせて、いかに賢く縮ませるかという考え方。長野市という自治体がある限り、続けて行く作業になるのではないかと。

具体的に、松代が他の地区と違うのは、歴史と文化が非常に豊富であり、多くの観光客等がお越しになる地区である。これは大きな財産であり、皆さまの誇りにしていただきたい。

小学校については、何が子どもたちの教育に必要なかを第一に考えて行くことが大切。今回のワークショップは、今後の個別施設計画策定など、様々なことを含めた検討のスタートに立つためのものであり、引き続き松代地区の皆さまのご協力をお願いする。

松代地区のワークショップ開催に御協力いただいた皆さまに、改めて厚くお礼申し上げます



最終回 よい良い大岡にするために 市民ワークショップ「公共施設の将来像」

全戸配布

をテーマにグループ討論を行いました

2月11日（日）大岡支所大会議室で、第5回「より良い大岡にするために」市民ワークショップを開催しました。

大岡の公共施設の将来像を考えるグループ討論の後、意見発表を行いました。住民自治協議会の西山会長のあいさつ、樋口副市長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、大岡地区のワークショップは幕を閉じました。関係の皆さま、ありがとうございました。（意見発表の内容は次ページをご覧ください）

公共施設の具体的な再配置に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等を参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまの意見をお聴きしながら協議を重ねてまいります。



- ◇地域をより良くする取組の検討＝小さな拠点づくりについても様々な提案をいただきました。
- ◇いただいた提案をもとに、取組の実現に向けて話し合う検討会の開催を予定しています。
- ◇検討会の開催につきましては、大岡支所または都市政策課にお問い合わせください。

市民ワークショップ、小さな拠点づくり、公共施設に対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。

今回のワークショップは、大岡地区住民自治協議会のご協力のもと、公募及び、各区からご参加いただいたメンバーで、熱心に討論を重ねていただきました。

住民自治協議会に託児の手配もいただきました。ありがとうございました。

【お問い合わせ先】

大岡支所 電話：266-2121
(小さな拠点づくりについて)

都市政策課 電話：224-5050
(公共施設について)

公共施設マネジメント推進課
電話：224-7592





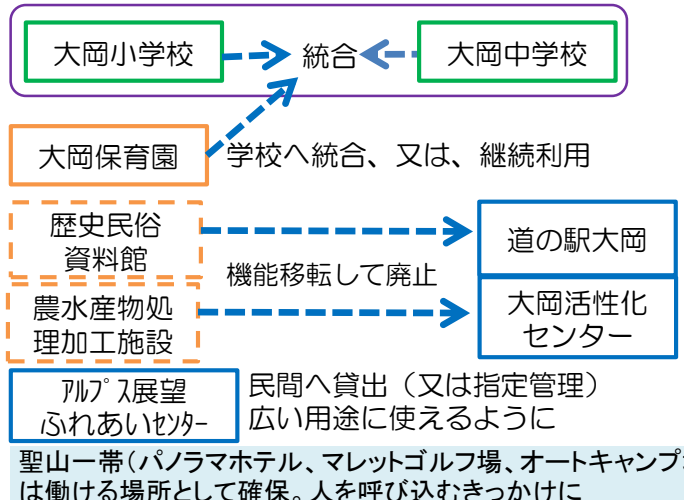
大岡地区の公共施設の一部です



公共施設の将来像に対する意見の概要をご紹介します

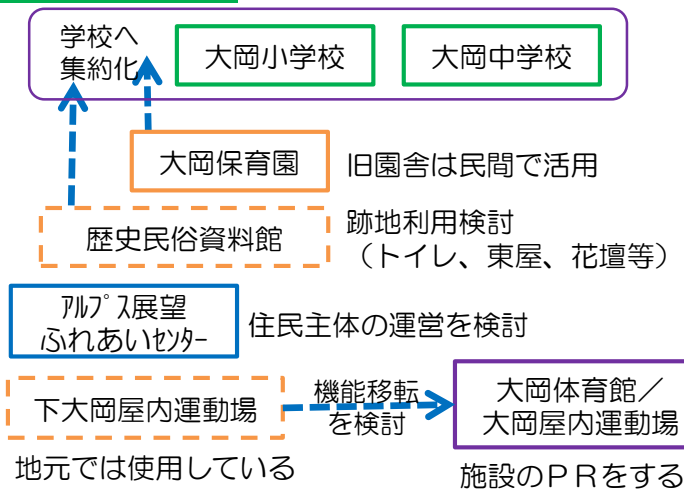
以下に、建物を移す案を で、機能を移す案を で、表しています

Aグループ コンセプト【地区内外の交流が進むような、公共施設再配置】



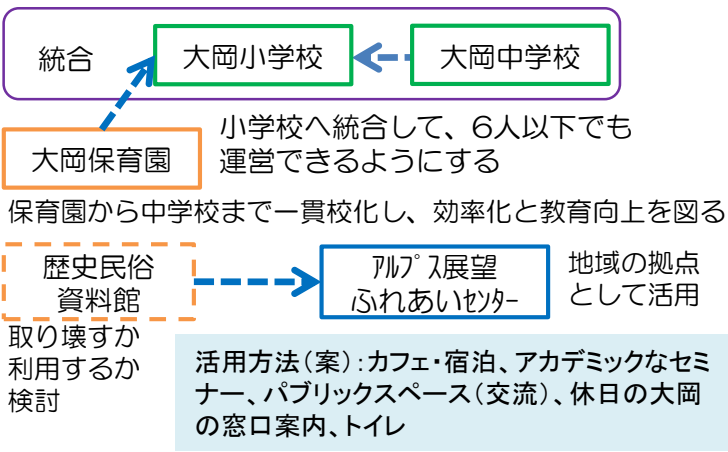
- 《効果》
- 魅力的な施設、地域を作ることで、地区外の人が大岡に来るようになる
 - 施設統合により利用の幅が広がり利用率が高まる
 - 雇用の場生まれる
- 《課題》
- 地区内の交通の便が悪い
 - 活性化や施設管理の担い手の発掘が必要
 - 定住に繋がらない。働く場所が少ない
- 《自分たちにできること》
- 生産物を積極的に出す。PR
 - 小さな拠点づくりの取組に、これからも協力する
- 市営住宅、教員住宅は大岡地区全体で集約化を検討

Bグループ コンセプト【必要な施設を残して、さらに有効活用の検討】



- 《効果》
- 住民が施設管理に携わることで、意識が高まる
 - 周辺環境と施設の管理ができる
 - 住民がかかわることで、大岡ならではのまちづくりができる
- 《課題》
- 学校の施設を把握する。他の施設も設備等を把握する必要がある
 - 公共施設に関する規制緩和
- 《自分たちにできること》
- 施設整備のボランティア。住民主体の施設運用
- 道の駅等、ツーリングや釣りの情報発信交流の場にする
教員住宅は民間へ売却する

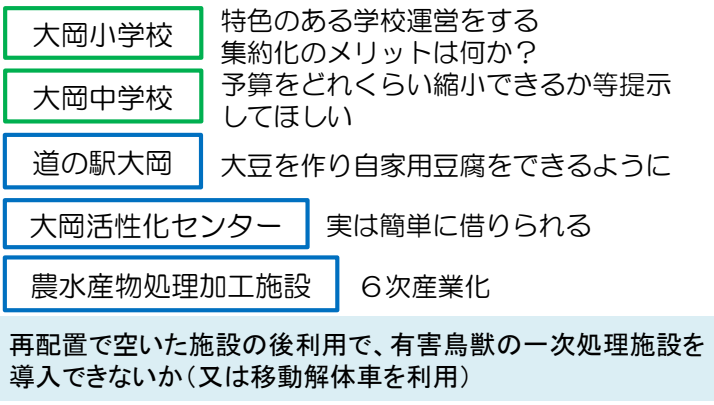
Cグループ コンセプト【みんなで知恵を出し合い行動する大岡 多様な人が集い自由に語り合える大岡】



- 《効果》
- ・保育園を少人数でも運営できる
 - ・外から人を呼ぶための施設が整う
 - ・住民の集まる場所ができる
- 《課題》
- ・情報が住民に届かない。行政との風通し
 - ・制度を見直す(園児数の基準)
 - ・カフェを開くための人集め
- 《自分たちにできること》
- ・展望ふれあいセンターでカフェの運営

教員住宅は廃止し解体

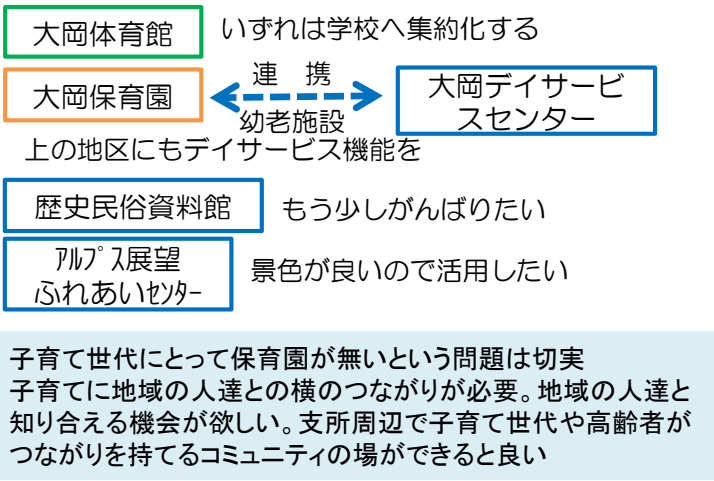
Dグループ コンセプト【なくす、減らすを考える前に 使用範囲を広げて大いに活用】



- 《効果》
- ・施設情報、利用方法、借り方を住民に周知する。使い方が分かれば稼働効率上がる
- 《課題》
- ・すぐを出す(積極的に施設を利用する意識を、住民に広げる必要がある)
 - ・施設が減らない
- 《自分たちにできること》
- ・施設を借りるためのソフト面の整備

教員住宅は廃止し解体

Eグループ コンセプト【子育てしたくなる大岡】



- 《効果》
- ・施設を複合化することで、皆が集まれるフリースペースを生みだして、保育園的機能を持たせる
- 《課題》
- ・保育園が休園中
- 《自分たちにできること》
- ・子どもを産む。三つ子を産む

市営住宅等も建て替えて有効活用を図る

菜園滞在施設等は学校・保育園のためにも無くせない

パノラマホテル周辺施設も有効活用する





参加者アンケートの主な意見をご紹介します

- ◆アルプス展望ふれあいセンターは、これから是非、住民主導で活用したい。
- ◆公共施設を借りるという事に対して、難しいというイメージを持っている人が多い。
- ◆公共施設について改めて考えさせられた。こんなに沢山あったんだと言うのがまず思ったこと。また、あまり利用していないということも感じた。どの施設がどう使えるのか聞き、自分にできそうな事からやってみようと思う。
- ◆普段自分の中だけで感じていたことを、ワークショップに参加して色々な方とシェアできたことや、色々な方の視点を知ることが出来て、自分の視野が少し広げられた。
- ◆今回の5回の内容は、今まで多かれ少なかれ話し合われてきたと思う。ここから先の段階に進むため、さらに具体的な話し合いにしていくために、住民と行政が連携していけたら良いと思う。
- ◆このワークショップのような話し合いが、日常の中でできることが一番良いと思う。そういった機会を考えて欲しい。
- ◆高齢化に伴って住民の意欲が低下して消極的になっている。子どもの声のする地域にしたい。
- ◆大岡の良さをもっと積極的に発信して、他県の人にも興味を持ってもらう。若い人の仕事ができる場所を積極的に紹介して欲しい。ワークショップをきっかけにした取組を期待する。
- ◆公共施設をどうにかしようとするのは住民がやることなのか。公共施設の話と地域活性化の話は最初から別に考えてもらいたい。
- ◆今回ワークショップで言いっぱなしで終わりと思いきや、引き続き、話し合う機会があるというので楽しみにしている。
- ◆休日返上で、様々な準備に携わってくれた全ての方々に感謝です。託児もあって本当にありがたかったです。



【住民自治協議会 西山会長のあいさつ】

皆さん積極的に議論いただき、今後時間がたって「私たちの意見が通って大岡が良くなった」と思えるようにしたい。第1回目から取り組んでいただいた皆さんの思いを、もう少し突き詰めて、そして発展させていきたい。もう少しより良い大岡づくりを進めていくためのチームづくりをして、ルールに乗せて行きたいと思うので、協力いただける方には是非とも参加をお願いしたい。市だけでなく県・国も含め、色々な力を借りながら、発展できる、住み良い、支え合える、穏やかな、自然に恵まれた大岡になっていけばありがたい。

【樋口副市長から御礼のあいさつ】

大岡地区では、小さな拠点づくりという、他地区では取り組んでいないテーマを入れて5回にわたるワークショップでの話し合いをいただき、関係各位に心より御礼申し上げます。

小さな拠点づくりは、どのように地域での暮らしを維持していくか考えていく。公共施設の適正化は全国的な課題で、人口減少の時代に合わせて、いかに賢く縮ませるかという議論であり、今回のワークショップはそのキックオフ。来年度以降、個別施設計画を作っていくが、いただいた意見も参考にさせていただく。今までは一つの目的で施設を作ってきたが、これからは多目的に使うことで活力や賑わいを生み出していくことが必要。もう一つは地域の中だけで考えずに、広く長野市全体で考えていく視点も必要だと思う。

今回のワークショップの話を、家庭や地域に持ち帰って、話していただけると、今後に生きてくると思う。これからも皆さまのご協力をお願いする。

大岡地区のワークショップ開催に御協力いただいた皆さまに、改めて厚くお礼申し上げます。



「私たちが考える、公共施設の将来像」

をテーマにグループ討論を行いました

2月24日（土）浅川公民館大会議室で、第2回の「公共施設について考える」市民ワークショップを開催しました。

既存施設の再配置を考えるグループ討論の後、まとめとなる意見発表を行いました。アドバイザーの信州大学寺内先生の総括、住民自治協議会の小林会長のあいさつ、樋口副市長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、ワークショップは幕を閉じました。関係の皆さま、ありがとうございました。



信大生にも参加してもらい、地区の将来像を話し合い、公共施設について意見をまとめて発表していただきました。（詳細は次ページをご覧ください）

今後、具体的な再配置及び施設整備に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等も参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまの意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。



今回のワークショップは、浅川地区住民自治協議会のご協力をいただき、地区の役員さんに、飛び入り参加の方も加えたメンバーで、熱い討論を重ねていただきました。



【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話：224-7592

浅川支所 電話：241-3552

各グループの意見(概要)をご紹介します

以下に、建物を移す案を  で、機能を移す案を  で、表しています

Aグループ

コンセプト【山間部と平地の交流

多世代交流のための充実した有効活用】

北郷体育館

休日に世代間交流する拠点として、高原学校・農業体験・田んぼオーナー制度等に活用。アトリエでも使える。駐車場が課題。

公民館分館

地区外の利用も含め、利用率が高い。現状維持のための改修が必要。

浅川小学校

校舎の集約化も検討。学校は残すべき。空き教室は児童プラザで活用している。児童センターと連携必要。ボランティア利用も。

西条人権同和集会所

利用率が高いが老朽化が進んでいるため、改修が必要。

スパイラル

子どもの野外教室に活用

《効果》

- ・浅川の活性化
- ・地区外からくる人が増える

《課題》

- ・現状、新しい人が入って来なくなっている
- ・地元に残って住んでもらうに、どうすべきか
- ・少子化で子どもがいなくなっている。施設を残さない、どこではない

《自分たちにできること》

- ・北郷体育館の使い方の提案
- ・地域の良いところを見つけて、地区外から来てもらえるようにする

Bグループ

コンセプト【交流(婚活)が生まれる浅川にしよう!】

北郷体育館

連携

浅川体育館

北郷体育館をPRして活用する

総合的な集約化を検討

浅川公民館

浅川支所

分団詰所

浅川小学校

小学校の老朽化対策になる。住民同士の交流が活発になる。駐車場が不足するため、現在の児童センターを駐車場にして、歩道橋を整備する。



スパイラル

施設にばかり注目が集まるが、広大な土地の有効活用が重要。里山整備の拠点施設として活用したい。コースだけでなく建物も活用できる

《効果》

- ・住民同士の交流の場が生まれる
- ・婚活の場になれば良い
- ・施設の複合化により運営費が削減できる

《課題》

- ・施設複合化の費用
- ・交通手段(山間地と平坦地の交通確保)

《自分たちにできること》

- ・施設のPRのアイデアを出す
- ・マレットゴルフ場の草刈りボランティア
- ・スパイラルで山菜取り講習の講師

既存施設でできることの可能性を探る。
浅川地区の周辺地区の公共施設活用も考える

Cグループ

コンセプト【若者が住みつきたくなる浅川地区を目指す】

北郷体育館

浅川公民館で開催している会議を、北郷体育館で開催して利用する

公民館分館

児童センターは小学校の空き教室へ機能移転。公民館分館と合わせた宿泊・交流施設にする。

児童センター

浅川小学校

西条人権同和集会所

西条(地域)公民館と統合する。

《効果》

- ・小学校空き教室の活用。子どもが集まり、活気が生まれる
- ・物置のような公民館分館の有効活用。人的交流
- ・北郷のための場所を残せる

《課題》

- ・児童センター子育て環境の整備。宿泊施設を作っても利用を増やす工夫が必要
- ・施設整備にかかる費用
- ・これからも利用者が減り続けると存続は難しい

《自分たちにできること》

- ・均等な施設利用に配慮する



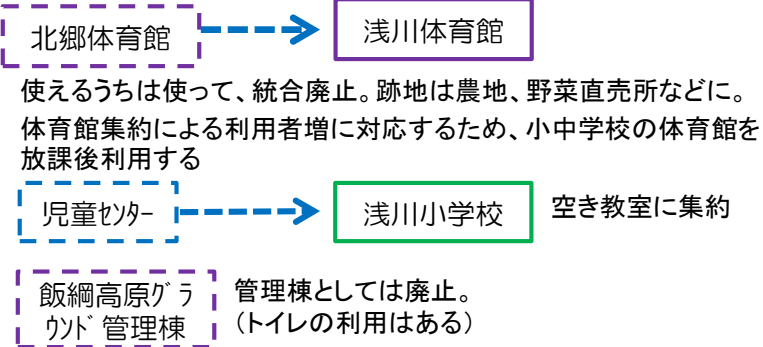
Dグループ コンセプト【いらぬ施設はない！ 施設の用途を広げて有効活用】

- 北郷体育館** 体育館の用途に限定せず活用する。農業体験、農村留学・歴史文化の学び、数年に一度地区運動会を開催する。防災拠点として維持する必要がある。
- 北部中学校** 部活のスペースが足りない(テニスなど)
- 浅川小学校** 空き教室の活用。料理教室等で活用できる。少子高齢化が進むなか、小中学生と高齢者の交流の機会をつくる。安易な集約はしない。
- 浅川児童センター** レクリエーションなど、健康づくりのために活用できる。
- 飯綱高原グラウンド管理棟** 芝生をはるなど、グラウンドの整備をしなければ活用は難しい。グラウンドを整備せずに管理棟を廃止するのは努力が足りない。

- 《効果》
- 北郷体育館を中心とした交流を通して、山間地の活性化
 - 防災拠点の維持
 - 小中学校で世代間交流
- 《課題》
- 交流の受け入れ態勢づくり
 - 公民館など、利用規制の緩和
- 《自分たちにできること》
- 公共施設の近くにベンチを設置し、町の縁側のような、人が交流できるようにする

(利用者が少ない施設は)障害者とその保護者に使ってもらうことも考えられる

Eグループ コンセプト【平坦地と中山間地の共生】

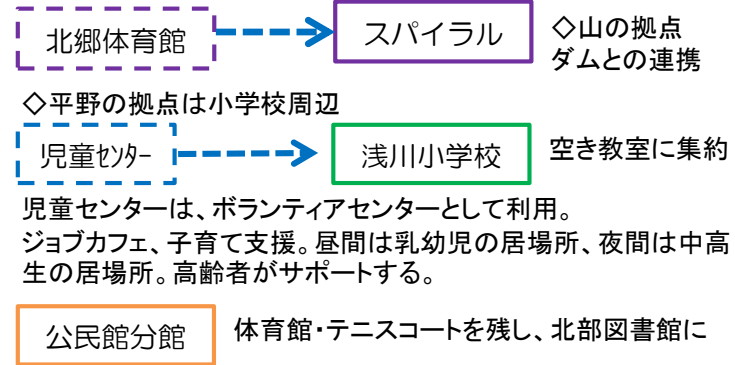


- 《効果》
- 児童センターの集約で、子どもたちの利用しやすい施設に。小学校の空き教室も活用
 - 北郷体育館の集約で、人が集まる。浅川体育館、学校体育館の利活用。
- 《課題》
- 北郷体育館の跡地利用
 - 山間地と平坦地の交通手段の確保
 - 施設利用有料化などの検討が必要ではないか

- 《自分たちにできること》
- 公共施設を積極的に利用して、地域の交流を図る

中山間地エリアは、山の魅力を活かす。トレッキングコース、マレットゴルフ、広場・農地など

Fグループ コンセプト【浅川笠地蔵ビジョン 山と平野を循環型でつなぐ】



- 《効果》
- 人と人、地域と地域、世代間のつながり
 - 稼ぐ(観光・ダムを活用)
 - 地域活性化、一人暮らしの高齢者対策
- 《課題》
- 駐車場の確保
 - 循環

- 山で農産物を集めて平野に運び野菜を販売
- 平野で必要なモノを買って山へ行く(買い物代行)
- 野菜が売れて一人暮らしの安否確認もできる

- 《自分たちにできること》
- 人づくり。リーダーが大切(手伝いはするけれど…)
 - ボランティア



参加者アンケートの主な意見をご紹介します

- ◆議論した内容が、今後もどのように生かされるのか関心を持って見て行きたい
- ◆地区内の公共施設について、少しだが知ることができて、楽しいワークショップだった。普段接することのない方との交流もできて良かった
- ◆具体的に施設の要・不要を考える必要がある。時間が少し足りない。幅広くアンケートが必要ではないか
- ◆テーマが大きすぎて、自分の中で意見がまとまりづらかった。参加者に30代~40代の人をもう少し入れるべき
- ◆大変貴重なワークショップに参加させていただいた。とても自分たちの生活に密接に関わることだと思う。それにしても回数が少なかった
- ◆存続することが大切、利用の拡大を図る。いらぬ施設はない。ワークショップについては行政の一方的な押し付けではないという考え方は理解できる
- ◆1回目と2回目の間隔が長すぎた。前回の思いが消えないうちに早く開催して欲しかった
- ◆公共施設を運営し、維持していくことが本当に大変だということが改めて分かった
- ◆公共施設の将来を考える機会もなく、日々楽しく、地域交流で利用させていただいていたが、浅川を思う気持ちがより深まり、皆さんとの大切な場所として活用したいと思う
- ◆特別な意識なく施設を利用しているが、統廃合、有効利用を考えて行きたい
- ◆地区内の公共施設について、施設ごとに真剣に向き合うようになった
- ◆人口減少と公共施設の問題を身近に考えられるようになった



【寺内先生からのアドバイス】

お金が無い、人がいない、高齢化が進むということは共通の知識としてあるなかで、でも何ができるか発想の転換が必要。皆さんが賛同しやすいことから始まっていくが、異なる意見、対立する意見、思惑が違う中で、どうやって議論を深めて行けるかが最大の課題だと思う。

人が減って高齢化が進む山間地域は、一方では大きな魅力を持っている、そういった地域へのまなざしを、これからも持続して欲しい。2回でも充実した濃い議論であったと思う。

【住民自治協議会 小林会長のあいさつ】

今回ワークショップメンバーは住自協から指名させていただいた。ご協力に感謝申し上げます。グループからの発表で、施設のPRが大事であること、山間地と平坦地の循環、共存を考えるという意見があった。我々住民にできることは限られるが、行政が明確なビジョンを示し、それを基に、行政と地元がしっかり検討して施設の在り方を考えるように進めていきたい。

【樋口副市長から御礼のあいさつ】

ワークショップに参加いただき、関係各位に心より御礼申し上げます。またスパイラルの運営にご協力をいただいたことにも改めて感謝申し上げます。

世代間交流や有効利用などのキーワードが出されていた。時代背景のなかで、まちづくり、暮らしづくりについて、皆さんの中で話し合っていく、その延長線上に公共施設があると思う。今までは、施設が出来てからどうやって使っていくかを考えていた。発想が逆であった。

どのように街を作っていくか、どう暮らしていくかをまず話し合っ、施設について考えて行きたい。今回はそのキックオフのワークショップである。引き続きのご協力をお願いします。